

府中多摩川通り住宅 消防設備説明

改) 2017 (平成 29) 年 10 月
2012 年 6 月藤倉電気, JS

1. 放送設備 (左)、防災監視盤(右)



・放送設備は更新済み
・防災監視盤は寿命 20 年であり、更新準備要

・上段(白枠)は火災現場のランプ点灯 (火災報知設備と連動)

・下段 (黄色枠) は煙現場のランプ点灯 (防排煙設備と連動)

2. 防災監視盤説明

- 1) 専有部、共用部の各種感知器 (熱感知器、煙感知器(防火戸)) で異常が感知されると、防災監視盤に自動作動し、警報音 (熱感知時は火災ベル音、煙感知時はブザー音) を放送し、異常場所を示すランプが点灯
- 2) 廊下・EV ホールに設置されてる消火栓表側にある赤い起動ボタンを押した時も、警報音 (火災ベル音) を放送し異常場所を示すランプが点灯



① ここに記載されている通り、このカバーを右側に開ける

② 警報音が鳴った場合の手順が掲示されているので、この通りの確認作業と SW 操作を行う

※上記 1) 2) の火災ベル音は、**火災発生階とその上階**が鳴る (地区音響という)

- 3) ランプが点灯している場所や部屋番号を確認し、異常現場を把握

※異常現場の確認と復旧処理（SWのリセット）

4)異常現場をしっかりと確認する。

5)現場に異常がなければ次の復旧処理を行う。

①警報音を止めるため、装置にある①の地区音響 SW、②の主音響 SW を下方向の停止へ下げる。

②次に、③の復旧 SW を下げ、表示灯ランプが消えれば、①の地区音響 SW、②の主音響 SW を元（上方向）に戻す。→下記写真の①～③の手順参照

※なお、煙感知器の誤作動により防火扉が閉まった場合の復旧は 7) へ

6)現場に異常がある時は速やかに次の活動を行う。

・119 番通報、消火器・消火栓を使用した初期消火活動等を行う。

②主音響 SW(熱感知の火災ベル<監視盤>を止める)

③復旧 SW(熱・煙感知共通)

①地区音響 SW(熱感知の火災ベル<各階>を止める)



③復旧 SW (③復旧 SW も可) (防火扉を壁に戻す前処理)

②主音響 SW(煙感知のブザー音を消す)。煙感知時は地区音響 SW の操作は不要

7) 煙感知器の誤作動により、防火扉が閉まったときの復旧

① 警報音を止めるため、防排煙設備内にある②⑩の**主音響 SW**（煙感知用）を下方向の停止へ下げる。

②次に、③⑩の**復旧 SW**を復旧側に下げ、表示灯ランプが消えれば、②⑩**主音響 SW**を元（上方向）に戻す。

→前頁写真の②⑩、③⑩参照

③最後に防火扉を壁にしっかり戻す。（③⑩の**復旧 SW**を復旧側に下げてからでないと扉は戻りません）

※上記処理でも扉が閉まらない場合は、煙感知器が損傷している可能性があります。

損傷の場合は感知器のランプが点灯しています。この場合、感知器のヘッドをはずして再度、上記復旧作業を繰り返してください。

あるいは、扉をガムテープなどで壁にしっかりと押さえて閉めます。

※防火扉の煙感知器は、扉の外廊下側にあり、粉塵・霧などで誤作動の可能性があります。

※逆に、外廊下側にあるので実際の火災の煙を感知しない可能性があり、その場合は力を込め引っ張ると閉まるのでいざという時には、危険がなければ閉めてください。

3. 消防機関への通報（119 番）

- 1) 火災を発見した者又は火災の通報を依頼された者は、直ちに消防機関へ通報（119 番）
- 2) 立川にある災害救急センターにつながるので、「火事です、所在地、建物名称、火災の状況」を伝達
- 3) なお、ぼやで消えた場合も必ず通報してください。

消防法により、消えた後でも通報する義務がある。保険金請求する場合も通報されていることが必要

4. 初期消火

1) 消火器の使用

- ・避難路を確保したうえで、天井に火が移るまでの間を使用の目安とする。
- ・なお、並行して消火栓を活用した初期消火活動に移行できるように消火栓ホースを延長しておく。

①薬剤の放射距離は、2 ～ 3 m です。放射時間は約 18 秒位です。

- ・火元へ搬送し、安全ピンを抜く
- ・火元にホースを向け、レバーを強く握り、掃くように放射（消火）します。

②消火器の製品名と性能（ネオピックス UVM10C、ABC 粉末消火器蓄圧式）

- ・普通火災(A)、油火災（B）,電気火災(C)などすべての火災に適応してます。



安全ピンを抜く



消火器の用途が確認できる。設置のタイプはすべての火災に対応可能です。

2)消火栓の使用（外廊下に設置）

①目的と注意事項

- ・火災が発生し消火器では対応しきれない場合、外廊下に設置されている消火栓にて、消防車が来るまでの初期消火を行う。
 - ・設置されている消火栓は、2人で取り扱うのが理想（ホース担当者と放水バルブ担当者の2名）
 - ・同時に使用する消火栓は最大2個
- ※有効な放水圧力を維持するには、最大2カ所の消火栓からの放水が限界であり、厳守！



②使用方法

- a) 上にある赤い起動ボタンを押す。→同階とその上階および防災監視盤の警報音(火災ベル)が鳴る。
・下の扉を開ける。（鍵が掛かっているタイプ（3号棟、EVホール）は下のプラスチック版を破り、レバーを下げる）

- b) 次に、必ず中にある起動ボタンを押す。→4号棟給水機械室にある消火ポンプが自動起動する。
※中にある起動ボタンを押下しないと、有効な放水圧力が得られない
※非常ベルが鳴っても、中にある起動ボタンを押下しないと消火ポンプは起動しない

- c) ホース担当者がホースをすべて引き出し、出火場所に構え、放水バルブ担当者へ準備OK合図を送る。

- d) 合図を受けた放水バルブ担当者は、放水バルブを全開し送水する。
・その後、ホース担当者のところへ至り、1～2歩後方でホースを持ち補助する。



a) 上にある赤い起動ボタン(発信機)を押下
※これにより1F防災監視盤(受信機)に連動し警報音が鳴る

b) 次に、必ず中にある起動ボタンを押下
※これにより、4号棟給水機械室の消火ポンプが起動し、地下の消火用受水槽から水を汲みあげながら放水用圧力をかける

c) 必ず、ホースをすべて引き出したのち、
d) 放水バルブを全開し放水開始

- e) 鎮火後、放水バルブを閉め、起動ボタン2個を戻す。
→はりがねレバーを下げる、指で戻すなど

- ※ホースを延長する前にバルブを開けると、ホースに水が充満しホースを取り出せなくなります。
※同時に使用する消火栓は最大2個。3個以上使用すると水圧が急激に低下し消火に失敗します。

..... <以下は鎮火後の防火担当者の役割>

3)4 号棟消火ポンプ制御盤の停止処理

- ・4号棟、給水機械室（ポンプ室）の消火ポンプ制御盤の停止ボタンを押し、消火ポンプを停止させる。
- ・給水機械室の鍵は消防理事と管理事務所に保管されています。



※左の消火ポンプのみの対応でよい。

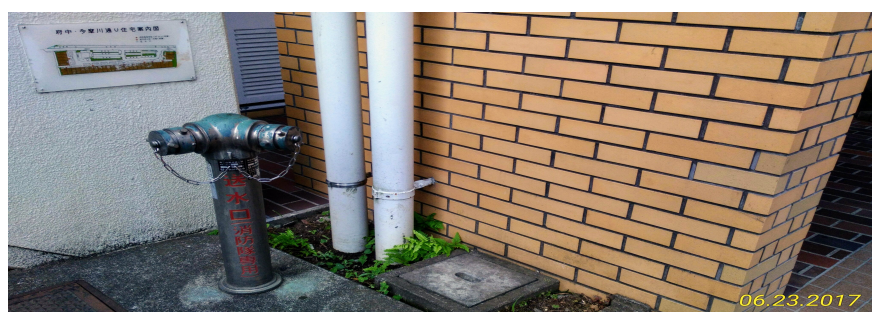
5.他の消火栓



- ※通常の消火栓機能 + 消防隊のホースを差し込む放水口がある。
- ・鍵がかかっているタイプは、プラスチック版を破り、レバーを下にさげ開ける。

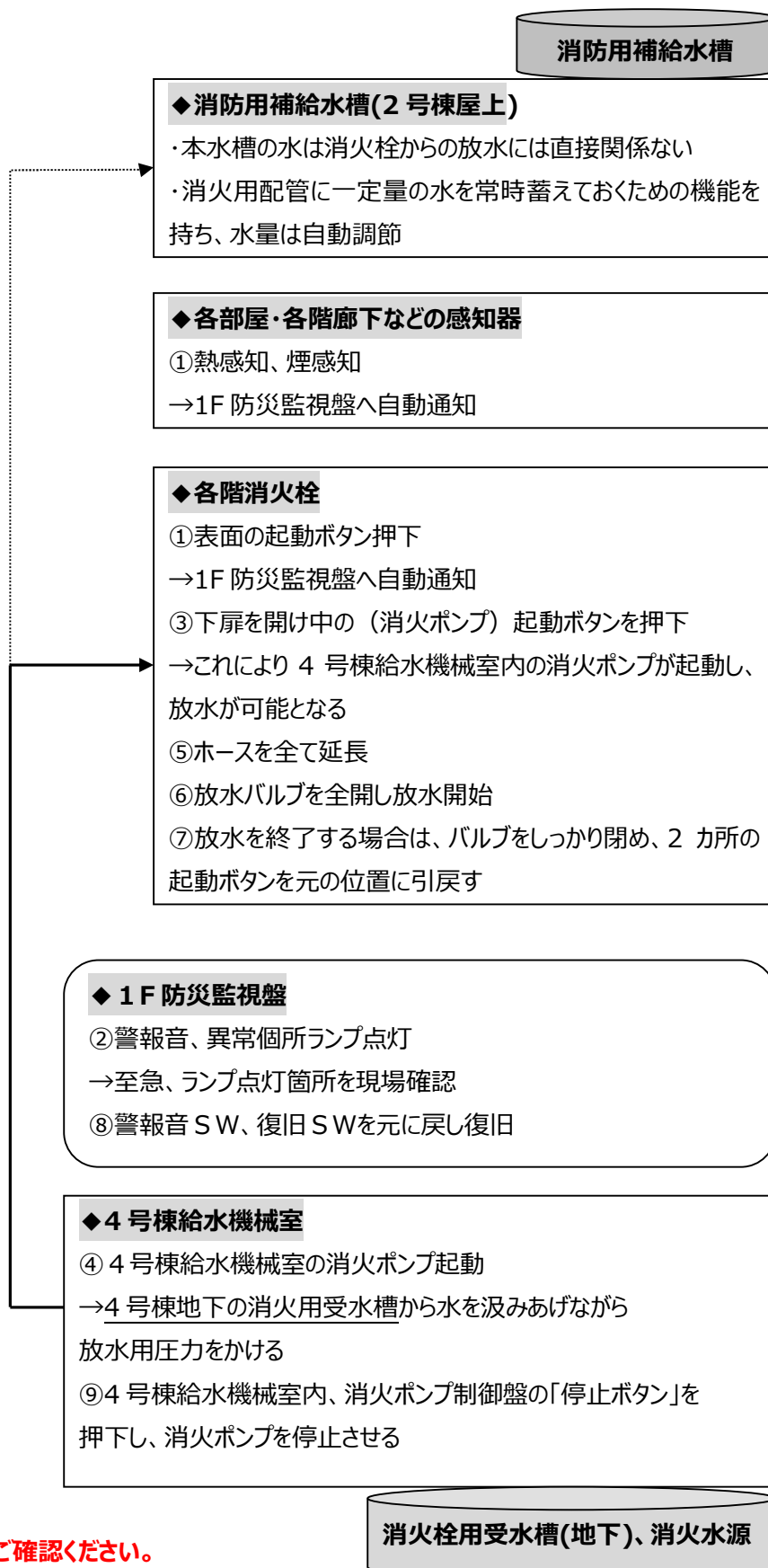


- ※消防隊が使用する消火栓
- ・消防隊のホースを差し込む放水口がある。



- ※消防隊が使用する連結送水口（消防隊がここから送水し、上記放水口から放水する）

6. 消火設備の仕組みと流れ



※①～⑨の順にご確認ください。

7.留意事項

◎ 停電となった場合

- ・屋内消火栓設備は自家発電に自動的に切り替わる。
- ・消火ポンプの稼働可能（放水も可能）
- ・防災監視盤、放送設備は自身のバッテリーが起動し警報音、ランプ点灯も可能
- ・ただし、インターフォンは未稼働(通話、火災アラーム)

◎ 大規模災害時に停電となった場合、各お宅での注意

- ・停電時に避難する場合はブレーカを落としておき、通電した場合の発火を防止する。

◎ ガスメータ

- ・震度 5 程度以上の地震で異常感知すると自動停止します。
 - ・安全確認したら以下の簡単操作で復帰できます。
- ①すべてのガス器具を止める。
- ※外のメータガス栓は開けたまま
- ②復帰ボタンをしっかりと押し、ゆっくりと手を離す。
 - ③ガスを使わないで 3 分待つ。画面の**ガス止**表示が消えていたら使えます。
- ※復帰の説明書がガスメータについてます。

◎ 断水した場合

- ・消火栓を使用した消火用には 4 号棟消火用受水槽（地下）から送水
- ・飲料水、バス、トイレ、洗面は利用不可（飲料用等に 3L/1 人日の備蓄要）

◎ 館内放送設備

- ・1 F 放送設備はマイクを取り、放送したい場所のスイッチ（一斉もあり）を入れ放送します。

◎ その他

- ・4 号棟給水機械室

給水直結方式により、1 F にあった給水用受水槽設備は削除済み

地下には消火栓用の受水槽があり、消火ポンプ起動時はここから汲みあげ、圧をかけながら消火栓に送水

本機械室を日常利用する場合は、重要施設である給水・ポンプ設備を壁などで保護する必要あり

防災食料のストック（旧受水槽内へ）や、限られた管理者の出入りであれば特段の配慮不要

- ・2 号棟屋上の消防用補給水槽

消火用配管内に水を常時溜めておくための機能のみ持つ。つまり消火ポンプ起動時に、4 号棟地下の消火用受水槽から屋上の補給水槽に水を汲みあげて消火に使用するものではない。